

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集会	担当者	コース
第1958回★ 白髪岳 △721.7	7/3(土) AM7:00発 壬生 (1/2.5万円 篠山)	岡田茂久(811)	壬生-亀岡-篠山-古市-住山-白髪岳-高仙寺山(△687)-住山
第1959回★★★ ちょっと渋い山 男埴山(妻籠)	7/11(日) 早朝出発予定 マイカー登山	河村 清(871)	京都東IC-中津川IC-落合川-細野...男埴山
第1960回★★ 養老山	7/11(日) AM7:00 壬生厚生会館前	吉田 武(654)	京都-養老の滝...養老山△ ...養老の滝-京都
第1961回★ 第1回トレール 東山コース	7/18(日) AM9:00 京阪伏見稲荷駅	三橋 勉(510)	稲荷神社...清水山...將軍塚 ...蹴上
第1962回★★ 笠形山	7/24(土) AM7:00 壬生	奥村 弘信 (791-7450)	京都南IC-中国道-福崎 IC-笠形山(往復)
登山道は完備してあります。中国の名山として形のよい山です。			
第1963回★★ 第4回夏山合宿 聖山・赤石岳	7/30(金)夜~8/3(火) 締切り 7/10 定員 8名。	西尾 直樹 (4-3240) 山岡昭弘(517)	費用 30,000円 すべて小屋泊まりです。 トレーニング山行あり。
参加希望者は担当者に連絡して下さい。(7/30) 京都-静岡-畑薙第一ダム(仮眠) (7/31) ...聖岳登山口...聖平小屋(泊) (8/1) 前聖岳...兎岳...百間洞山ノ家(泊) (8/2) ...赤石岳...赤石小屋...樺島(泊) (8/3) 畑薙第一ダム-静岡-京都			
第1965回★★ 沢登り 鈴鹿 元越谷	8/1(日) AM7:00発 壬生 (1/2.5万円 御在所岳)	岡田茂久(811)	京都南IC-栗東IC-野 洲川ダム-元越谷...仏谷... 猪足谷林道...元越谷出合
わらじ又はウェットシューズ, ヘルメット, その他沢登り用具, 着替え。(あれば浮袋)			
<b>今月の集会</b> 日時 7月12日(月) PM6:00 場所 厚生会館 4F 大教室		<b>企画運営委員会</b> 日時 7月20日(火) PM6:30 場所 厚生会館 4F 大教室	

※ 第1964回例会は「P17」に掲載しています。



## ツチノコ共和国

岡田茂久

今年もツチノコ共和国から、源平蟹合戦観戦とツチノコ探険ハイキングの案内が送られてきた。ツチノコ共和国とは奈良県の下北山村池原にあるミニ共和国である。不肖、私も国税を毎年納付するツチノコ共和国の国民で、共和国への出入国に必要なツチノコ共和国外夢省発行のパスポートを頂いている。共和国の王宮を別荘として利用できる特典があるが、このパスポートを他人に貸与したりすると密入国行為となるということで、残念ながら諸氏にはお貸しできない。

ちなみにツチノコ共和国はツチ王とノコ王女の元に、大食省、運遊省、抱夢省、遊勢省、野林省から輪野庁、食獵庁までそろったれっきとした共和国である。

今でこそブームは下火になったとはいえ、一昔前にはツチノコといえば一世を風靡したものである。我部のS大先輩は今でこそ「あんなもの居るかいな」とのたまっているが、かつてはツチノコ捜しでも有名であったノータリンクラブで、山本素石翁などとツチノコ捜しに奔走していたのである。山本素石翁の「逃げろツチノコ」という本では、S大先輩の面目躍如としたエピソードが色々で紹介されている。

目撃者の話を総合すると、ツチノコとは丈は30～70cmで尾は細く短く、扁平なビール壘の様な体型で、黒か焦茶のうろこを持ち、両手の人差指と親指で三角形を作ったほどの大きさの頭を持つ。鼾をかいて眠り、コロコロ転がったりジャンプをする。薄気味悪い目つきでにらみ付け、垂直に突っ立つという。髪の毛やすりめを焼く匂いが大好物らしい。

はたしてツチノコの正体とは。古くは野槌、槌ころび、地方によっては、五八寸ともスキノコともいうが、柳田国男によると「野槌は丈の至って短い槌のやうな形をした蛇で、道の上を転がってきて行人を襲うと伝えられ、…中略…ツチはミツチが水の霊であると同様に、本来はただ野の霊というに過ぎなかった……」、又、「山の民俗」によると「野槌は山で千年、海で千年住んで天に昇るが、人に見られると出世できなかった」ともあるように、昔から道に出現する妖怪であるが、めったに人の目に触れるものではなかったのである。

世間でツチノコが目撃される様になったのはそう古い話ではない。一説によるとツチノコが最近になって出現したのは、東南アジアからの木材が輸入される様になってからで、現地にはツチノコそっくりのトカゲが棲息し、それが木材と一緒に輸入され逃げ出したものであるという。

写真を見たが、なるほど足はあるものの退化しほとんど目につかない。太短い胴といい、うろこいい、いわゆるツチノコそっくりである。しかし、それにしても目撃されるのが港ではなく、下北山の様な山奥が多いというのが解せない。まあ、それが妖怪たる所以かもしれない。

それにしても共和国では、国のシンボルであるツチノコを世間を騒がす不届き千万のやからとして、賞金付きの手配書が出回っている。生け捕り百万円、死体五十万円、写真十万円、ぬげがら三万円はお愛嬌だ。

ツチノコ共和国憲章は高らかにうたっている。曰く、一、広くツチノコ捜しを解放し万人はツチノコを愛すべし。一、老若男女は心をひとつにして盛んに搜索すべし。一、国民はその志を遂げ大いに世間を驚かせるべし。一、ツチノコの世界に教え国境を越えてロマンを分かちべし。

登山にしても所詮は趣味である。登山に対して主義主張や相応のセオリーも、時としては必要なこともあるだろうが、夢とロマンと遊びの精神だけはいつまでも持ち続けたいものである。

## 【第1945回例会】

九州の山旅

### 傾山・高千穂峰・韓国岳

(傾山)

山元誠一

九州の山といえば、10数年前井上さんらと、やはり5月の連休に法華院温泉から久住山、大船山を登って以来のこと。祖母山、霧島山系への山旅という言葉に魅せられ、家族の承認の得られぬまま、今回参加した次第。

やはり、天罰が下ったのでしょうか。のっけから、神戸港への道は間違うは、何とか神戸港に辿りついたものの、再びアクシデントが発生！！。

神戸港から乗る車については、高さ制限があり、我々の車は制限を4cmオーバーしているから乗船できないとのこと。今回の山行もここで、万事休すかと思われたが、1時間以上、フェリー会社とやさもっさと協議した結果、タイヤの空気圧を減らして何とか乗れることになったが、それでも一番最後にバックで乗るというオマケまでついた。船内は満員であったが、何とか場所を確保する。星空を眺めながら一夜の瀬戸内の航行はなんともロマンチックであった。

(5月1日)早朝、曇りがちな別府港に到着。今度は気持ちよく、一番最初に下船。国道10号線、326号線、県道、林道を経て、傾山登山口の黒仁田には予定の11時に到着。途中「ねこバスの里 トトロ」というバス停留所を発見し、一同びっくり、早速記念撮影となった。

車はもう少し奥まで入れそうであったが、林道を整備しておられた地元の方が「ここで駐車して下さい」とのことでしたので、980m地点で駐車することとした。

傾山は案内書によると、祖母山の東方に位置し、女性的な祖母山に対して、岩峰のため、男性的とある。また、名前の由来は、西面が大岩壁で山頂部が首をかしげたように見えるため、そのような山名が生まれたとか。傾いた原因については、西の祖母山と高さ争いをして負けたため、祖母山に向かってあやまっている姿だとか。私の場合思わず、カワイイ(コワイ)娘の待つ、東方に頭を下げた次第。

相変わらず曇りがちの空を見上げながら、林道を歩き始めること15分余り、林道と分かれて、九折越に至る山道を、20分も歩くとあっけなく九折越に到着した。気持の良い峠の広場では、10名程が食事の最中であった。

そこから、30分も歩くと傾山の岩峰が目前に見える地図上で1380m地点に着いたので、そこで昼食をとることとする。我々が昼食をとっていると上から10名余りの登山者が下りてくる。年配の人ばかりだ。

昼食後、300m余りの急登を30分余りで一気に登ると傾山2等△1602mに着いた。その頃からガスがかかり、頂上からの展望は望むべくもなかった。頂上から北側は岩峰が続いているとあるが、その姿は見えじまい。風が強く、今にも雨が降りそうだったので、万歳三唱ののち、早々に頂上を後にした。途中小雨にあったものの、50分余りで九折越に到着。峠の上部には、63年

に建設というが、整備の良い、まだ新しい小屋があった。

今にも雨が落ちてきそうな空を気にしながら、駐車地点に戻り、車を高千穂町に走らせて夕食を仕入れたのち、有名な高千穂峡で雨の中でのテント設営となった。

### （霧島山群－高千穂峰，韓国岳）

岡田茂久

5月2日、計画では祖母山に登る予定であったが、残念ながら雨の予報である。夜半には雲間から月が顔を出したりして期待していたのだが、早朝からテントの屋根を叩く雨音が恨めしい。登山は諦めて観光と移動日ということになった。

高千穂峡は長靴を履いて一巡り、雨に煙る渓谷もまた良き風情であるが、手摺りもない濡れた岩壁から覗く深い渓谷には足がすくむ。次いで神寂びた天岩戸神社や矢部の通潤橋など、雨のおかげで思わぬ観光をすることができた。人吉市とえびの市との間のループ橋も楽しみにしていたが、連休のことと国道は大渋滞。標高800mの濃霧の久七峠を越えて大口市に迂回し、粟野岳を経てやっと霧島温泉に出ることができた。一時は小雨となり太陽も時折に顔を出したりしたが、テレビの気象通報は警報のオンパレードである。果たせるかな幕営予定の霧島温泉ではどしゃぶりの豪雨で、とても幕営する気にはなれない。急遽、観光案内所に飛び込んだが、5月の連休とて何処も満員、やっと一軒だけ空室のあった旅館に逃げ込んだ。若山牧水ゆかりの宿というが、温泉はいま一つ期待外れであったものの、それでも足腰だけは思いきり伸ばすことができた。

5月3日、温泉泊まりの朝はシューシューという噴気音に目覚める。霧か湯煙りか窓の外はよく見えないが、天気は悪くはなさそうだ。「又、どうぞ」と番頭の声に送られ朝霧に煙る温泉街を抜けると、高原には青空が広がり、正面に雄大な霧島山群が展開する。登山口の高千穂河原の駐車場はもう登山者で一杯であった。みんな昨夜はどうしていたんだろう。

石畳の自然観察遊歩道を過ぎ、火山礫のゴロゴロした歩きにくい登山道となる。灌木帯を抜けると視界が広がり、火口壁までは赤茶けた砂礫の急登で、無数の踏跡が斜面に散らばり。みんな思い思いの踏跡を火口壁上に登り着く。時折硫気臭はただようが5月の風はなんとも心地好い。火口壁から高千穂峰頂上ドームへの鞍部へは崩壊の爪が迫って痛々しいが、高千穂峰頂上から麓の樹林帯までの曲線スロープはなんとも素晴らしい。火口底には大きな相合傘が小石を並べて描かれていたが、誰の作品か御苦労さんなことである。頂上ドームへはまさに喘登だ。天の逆鋒の突き刺さった高千穂峰の頂上には、大きな日の丸の旗が翻っていた。雲が多くあまり遠くは展望出来なかったものの展望はさすがである。頂上の山小屋は年中営業ということだが、休憩お一人様200円、トイレ使用料は1回50円である。当り前といえばその通りだが、どうも釈然としないまま早々に高千穂峰を駆け下る。途中、奇遇にも日本山岳会京都支部のAさんと出会う。開聞岳から高千穂、明日は大崩山と、我々と同様にハシゴ登山の最中であった。

霧島道路をえびの高原に回り込み、韓国岳登山口である地獄谷直下の道路際に駐車。道路を外れて駐車すると、いまにも車の下から噴気が吹き出しそうな所である。荒涼とした地獄谷を横目に、多数の登山者と抜きつ抜かれつ、岩屑がごろごろ、火山灰のつつつの歩き難いルートを、

韓国岳の火口壁に登り着く。眼下にエメラルドグリーンの大浪池が美しい。地図の韓国岳名のピークは、麓から見るといかにも登行欲をそそるがバレーションルートで、韓国岳の三角点は地図には霧島山とある。高千穂峯と同様に大きな火口壁を回り込んで、韓国岳と標識のある三角点にタッチする。例により大声でバンザイをすると、周辺の大勢の登山者は良いオジサン達かと怪訝な顔をしたが、次の瞬間一斉に万雷の拍手を頂いてしまった。

山行の最後はやはり温泉に限る。韓国岳も駆け下り、地獄谷下の市営露天風呂に飛び込んだが、前夜の大雨のおかげで熱燗とは言えず人肌なみ、火の国の山旅なのに、どうも今回は温泉には恵まれなかったようだ。とはいえ青い空を見上げての露天風呂は駆け足登山の疲れが解消する。

霧島道路を小林 I C から宮崎へ、途中、霧島道路の生駒高原では、色とりどりのポピーの花が見渡す限り満開で、名残を惜しんで山を降る我々を華やかに見送ってくれた。

〔コースタイム〕

30日 神戸港 (20:10 発) - (別府行フェリー)

1日 別府港 (7:40 発) - 大分・犬飼町・見立経由 - 黒仁田駐車地点 980 m  
(11:00~11:15 発) …林道分かれ (11:35) …九折越 (11:50~12:00) …1390m  
地点 (昼食 12:35~13:00) …傾山 2 等△1602m (13:30~13:45) …九折越  
(14:35~14:50) …林道分かれ (15:00) …黒仁田駐車地点 (15:15~15:30)  
- 高千穂峡 (17:40 着)

2日 高千穂峡 (7:40 発) - 天の岩戸神社 - 通潤橋 - 松橋 I C (九州自動車道) - 人吉 I C  
- 大口市 - 霧島温泉 (16:00 着 泊)

3日 霧島温泉 (7:50 発) - 高千穂河原 (8:15~8:25 発) …1200m 地点 (8:45~8:55)  
…1400 m 地点 (9:25~9:35) …高千穂峰 2 等△1574m (9:55~10:20 発)  
…高千穂河原 (11:30~11:35 発) -  
えびの高原駐車地点 (昼食 12:00~12:30 発) …五合目 (13:05~13:20 発) …韓国  
岳 1 等△1700m (13:40~14:00) …えびの高原駐車地点 (14:45 着) -  
市営露天風呂 (15:00~15:30) - 生駒高原 - 小林 I C (宮崎自動車道) - 宮崎 I C -  
宮崎港 (17:00 着~19:00 発) - (大阪南行フェリー)

4日 大阪南行 (7:50 着) - 京都 (10:00 着)

〔参加者〕

渡辺智生, 方山宗子, 山元誠一, 岡田茂久

## 【第1951回例会】

# 台高 白倉山と江股ノ頭

三 橋 勉

久しぶりに山頂へテントをかついで登り、伊勢湾からのご来光を体験して来た。土曜日の朝6時に出発し、高見山のトンネルを越えて奥香肌峡に入る。ダムサイドのきれいに舗装された道を快適に走り、蓮まで行き過ぎたので三軒家までバックする。

登山準備をしてから江馬小屋谷を少し入り、えん堤の先の橋を渡って水をくみ、対岸の植林道をジグザグに登り尾根に出る。急な尾根であったが下生えもなく歩きやすく、ユックリとしたペースでのんびりと登って行った。枝尾根の途中にある3等三角点1,011mで西方向の台高山脈を眺めながら昼食とする。

三角点からは、いままでの急な登りからゆるやかな尾根となり、やがて迷岳からの尾根に合流したが、そこから200m下るコースとなるので、慎重に地図で確認しながら細尾根をさぐりながら下り、あん部から登り返して2つ目のピークを越えたところでテントを張る。

風が強くてたき火ができないので、テントの中で各自思い思いの夕食となる。今までのしんどかった登りも忘れて「テント生活もいいもんだ。」とゴキゲンである。酔いがまわった所で少し早かったが明日に備えて寝ることにする。

翌朝、4時半ごろ小鳥のさえずりで目を覚まし、東の空が明けに染まってきたので、ご来光を拝もうと急いで白倉山頂上に登る。西側を除いて展望がよく、伊勢湾から出てくるご来光の感激の瞬間に遭遇した。

テント地に戻り、たき火の側で朝ごはんとなる。今日は登り下りの尾根コースなので早めに出発したつもりが、白倉山頂でついながいをしてしまった。お天気は今日もよく、仙千代ヶ峰や大台が原の日出ヶ岳そして大峰山脈がよく見渡せた。

この付近一体の笹が、50年に一度の立ち枯れの年なのか、歩きやすいコースでおまけにツツジやシャクナゲの花が咲いていて、ゴキゲンで展望を楽しみながら進む。

1,020m地点から、2つのピークを目の当たりに見たところで、コースが解らなくなり、地図とにらめっこをして付近を偵察すると、急なくだりでアリの門渡りのような岩場のやせ尾根となり、慎重に通過する。

手前のピークに立つと、昨日に登ったコースが谷を隔てて、向かい側によく見え、今日歩いて来たコースと、これから登る三角点の山頂もよく見えた。少しくだって最後のピーク目指してガンバリ広々としたブナ林の山頂三角点1,269.6m（江股ノ頭）に到着した。

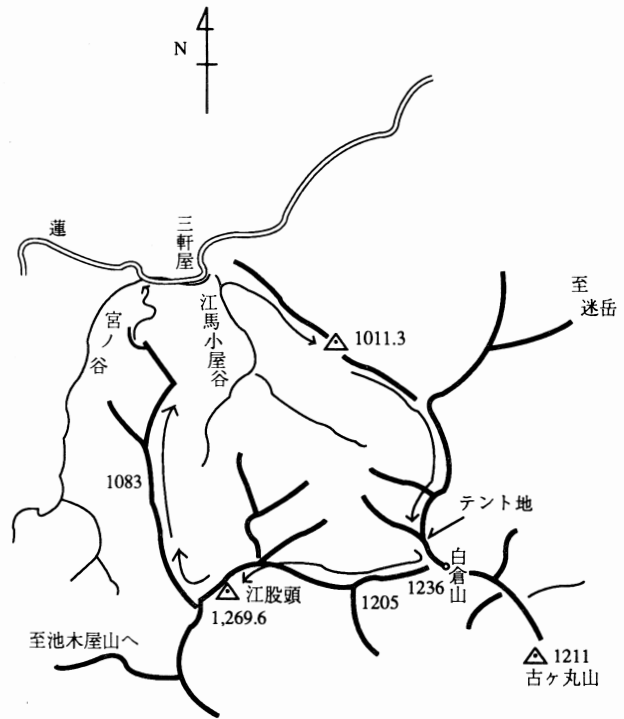
ここまで我慢して持ってきたビールで乾杯をして、ランチタイムには少し早かったが、のんびりとくつろいだ。

そこから少しくだった所で下山ルートの尾根をくだり始めたが、どうも方向がおかしいと登り返し軌道を修正しヤセ尾根を進むと、左側に台高山脈が見えたので安心したが、登り下りの連続

でなかなか高度が下がらない。

やがて滝見台という松阪労山の標識のあるピークに出た。池木屋山登山道のルートにある高滝が真っ正面に見え、そのうしろに台高山脈があった。その少し先から尾根道が怪しくなり、地図の破線路のとおりトラバースぎみに下るが、ルートを見失い植林に沿って下ると、やっと山道を発見し、その先に植林の作業小屋があり、ヤレヤレという感じで一服する。

そこからは急降下で宮の谷出会の河原に降りることができた。ちょうど通りかかった車に三軒屋まで乗せてもらって車を取りに戻り、全員無事下山したところで、帰り道の国民保養センター奥香肌荘で温泉に入り、近くのレストランで夕食をして帰宅した。



〔参加者〕 伊藤潤治, 河村 清, 山下周道, 三橋 勉

〔コースタイム〕 5/15 七条大宮 6:05 - 蓮 9:00 - 三軒家 9:10~40 ... 橋 9:45 ... 3等三角点 (昼食) 12:41~13:25 ... 1,190m分岐点 14:30 ... テント地 17:00

5/16 起床 4:30 ... ご来光 4:45~55 ... テント地出発 6:46 ... 白倉山 6:55~7:35 ... 1,205m 8:35 ... 3等三角点 10:25~11:35 ... 分岐 12:00 ... 1,083m 滝見台 13:37~50 ... 960m 14:42 ... 作業小屋 16:00 ... 宮の谷出会 16:33 - 奥香肌荘 (温泉と夕食後帰宅) - 京都 10:00

## 燕岳から常念岳縦走

梅津 吉田 武

5日 飯豊連峰の縦走をしようと思って例会にしたが、参加者がなく現地に問い合わせもしたが今年は雪が多くて単独行では大変だと言う返事だったのでやもおえず燕岳から常念岳縦走に変更した。

2名の参加をえたので早朝より京都駅にむかった。

新幹線と中央線の特急を乗り継ぎ大糸線穂高駅におりた。駅前のタクシーにて中房温泉まで、約6,000円。昼前であるので昼食を済ませて登り始めた。

樹林帯の急坂でゆっくり登っても夕方に燕山荘につくからと言って無理をせずに登った。第一ベンチ、第二ベンチ、第三ベンチと過ぎてやっと合戦小屋についた。

夏山に向かって小屋の人達は忙しそうにしていたので小休止をして小屋を後にする。

残雪が所々に出てきたが危険なところもなくやがて樹林帯を抜けると燕山荘の屋根が見え隠れして来た。まもなく燕山荘についたが、少し時間があるので燕岳を往復することにした。

荒涼とした花崗岩の登山道をガスに巻かれないように歩く、往復1時間程かかった。

6日 5時過ぎに起床して外に目をやったら高瀬川を挟んで槍、三保蓮華岳から針ノ木岳まで遠望出来た。

7時に食事をすませて今回のメインである常念小屋までの銀座コース歩行約6時間位なのでゆっくりと景色と高山植物を見ながら歩く。

アップダウンも少なく一ヶ所、切通岩から大天井岳の登りが標高差450m位であろう少しきついくらいである。正面には槍ヶ岳北鎌尾根が見えるが槍ヶ岳の穂先はガスがかかって見えない、天狗岳、南岳そしてキレットを挟んで北穂からカラ沢が見える、コースには雪がなく雪庇の出る方に残雪が有った。

横通岳の三角点もタッチ、コマクサの咲きそうなガレを30分も登るとピークの端に三角点があった。

ここまできると下りオンリーなので大休止をして眺望を楽しむ槍、穂高そして遠くに乗鞍や御岳が霞んで見えた。

樹林帯に入って暫く下ると常念乗越である、明日の登山道を見ながら小屋に入った。

PM 3.00 ベランダに出てビールで乾杯、小屋のM氏に明日のルートを確認して楽しく歓談した。

昨年近くで写した植物のアルバムを見せてもらい落ち着いた一時を過ごした。

7日 7時過ぎに出発、常念岳から前常念を越えて三ツ股まで約6時間、逆算して三ツ股に2時頃にタクシーが来るように小屋をお願いして小屋を後にする。

登り50分と書いてあったが1時間10分かかって頂上についた、三角点はないけれどもすこぶる眺望の良い山で頂上から前常念えのルート見ながら八合目より前常念の尾根に取り付く、久しぶりの一等三角点である。

コース横には所々雪もあり快適なコースであったがここから標高2,000mまでは岩石混じりの歩みにくい道であったが落石もなく樹林帯に入った。

ここから三ツ股まで標高差700mなので2時間もあればつくので細かくをピッチを切った。途中大きな倒木があって行く手を遮ぎっていたが無事に切り抜け2時に三ツ股についた、だがタクシーがまだ来ていなかった。20分、30分待てども来ないので歩きだした、10分程歩くと後からキャラバンワゴンが来たので電話のある所までお願いしたが穂高町まで行くので穂高町にあるシャクナゲ荘まで乗せてもらう(ワゴンの兄さん有り難う)一汗流して穂高駅より帰路についた。

吉田 武 他二人



〔個人山行〕

## 吐噶喇悪石島御岳・中之島先割岳

坂井久光

兼ての約束で大阪の山形氏と二人で吐噶喇の念願の一等三角点二座を登って来た。

3/8の18時発のサンフラワー号で大阪南港から9日9:40~57志布志港から志布志駅10:06~24。JRで串間駅へ行き、市役所で高畑山の航空自衛隊の入門許可を電話で課長にして頂き、タクシーで高畑山へ。連絡で門迄係の隊員が迎えてくれ、山頂の三角点へ。私は10年程前に来た事があるが、山形氏はこれで九州本島の一等三角点は全て訪れたことになるとの事。

今日は快晴で工事の為入口が開かれており米軍が作った急な段差の石段を登って山頂の三角点へ。周囲は林で展望はすくないが、東に東峰のドームがすぐ見え周囲は椎・檜・八手等の常緑樹林だ。登頂を祝して撮影して下山。車で串間駅へ。14:06発のJRで志布志駅14:25~15:00バスで垂水港へ。16:55~17:05。フェリーで鴨池港へ17:45~50バスで天文館へ行き。料理屋で山形氏の九州本島完登の祝盃で薩摩料理を食べ新設の棧橋へ21:06~22:00。十島丸で3/10, 9:37悪石島上陸。舗装林道を歩いていると石留建設の車が来て御岳の山頂近くの無線塔迄送ってくれた。そこから琉球竹の藪中の踏跡を登って山頂三角点584mへ。10:09~15, 周囲は琉球竹で展望は全然なし。三角点は15cm角の小型の標石だった。天候は曇でゆっくり車道を歩いて下山。港から1Kの湯泊温泉へ行き入浴して汗や疲れを癒す。コーヒを沸し昼食後奥の砂蒸温泉へ散歩した。すると東京の立正大学生4人がキャンプしていた。この島は8/16に男鹿のナマハゲの様なボゼ神の假装行事があるので有名で一度観光したいものだ。

全島火山島で竹林と常緑樹林で一部牧場に利用されていて耕地は少い。11:46~14:00 14:20出航。17:50中之島上陸。中之島民宿に久しぶりで泊り、日高貞則と会う。山形氏は昨年間違えて民宿日高に泊ったが、すぐ下の家で従弟とか。3/11支所長を退職した日高氏の弟の車で7:50出発。中之島の中央開拓地車道を走り、池原から林道に入り、先割岳とコテイ山の峠で下車。8:10~20。先割岳がま近に見え直線距離約600m。標高524mの小山だが、前回登らなかったのはこの林道が開通されてなかったのと全山琉球竹で登路はないとのことで今迄来島しなかったのだ。山形氏と二人で鉋で切開いてでも登らうと決意して来たが、竹藪の中に細道が山へ延びており辿ると稜線に出た。ビニール袋の標識があり小広い峠で奥へ向ったが百米程先で踏跡もなくなり見通全然なし。元の峠へ下り先へ少し下って道を辿って見た。珍しく一本の木の下から山頂の一部が竹林越しに見えた。そこからビニール紐をのばして竹林に飛込んだ。高みへ隙間を辿って登り邪魔な竹を切払って稜線に出て山頂を目指して登った。やがて山頂に着いて石に当たったので落葉をかき分けると15cm角の小型の一等三角点が現れた。標高524mだが登山者は皆無の山であらう。山形氏と二人で万歳三唱。

周囲は竹林で展望皆無。少し切広げて写真をとり小憩後紐を辿って下山。10:30~11:10。

峠11:50~55, 林道12:15~50。昼食休憩後、車道を歩いて下山。途中野生野羊の親子が飛出して先へ逃げて行った。中之島火山の中央旧火口が戦後開拓され一時4人位いたとか。

現在高尾部落数軒があり、他にトカラ馬牧場や耕地・民俗博物館・開発センター。公園や運動

場になっているが一部は竹林の昔になっている。噴煙を上げる御岳 979mを眺めて民宿に帰り近くの西温泉に入浴に行き汗を流して宿に戻り夕食を二人で祝盃後にとり就寝。

翌3/13日東の海岸へ車道を散歩して寄木部落を経て山手の方へ歩いて廃道の車道を下って学校の横に下り東温泉へ入浴して帰ったりして後は宿でテレビを見たりして過ごした。

3/14朝から弟さんの車で御岳の車道を登り無線塔の立つ終点の少し手前の登山口に行き、御岳へ。60. 2. 4に登ってから約8年ぶりか。

草原に出て間もなく露岩の山頂。美しい18cm角の一等三角点を二人でふれて万歳。風強く展望は快晴でよく先割岳やホレ岳の無線塔・口の島・平島・諏訪之瀬島がよく見えた。

登路を下山して一周林道との分岐で昼食休憩後私は山形氏と分れて一人で御岳の裏側へ一周林道を歩いて池原―高尾を経て帰るべく出発した。下山途中も野羊が飛出したりしたが途中いたちが一匹出て来た。途中で後から小学校の先生長崎克則の車が来て古里地区の舗装工事場迄乗せて戴き、バードウォッチングで珍しいシシガシラと云う小鳥を見て写したりした。工事場で別れ底無池の近くでタチバナ遺跡（縄文時代）を通過して高尾を通過して帰ったが、裏側は常緑樹林で、道端にハイビスカスやバナナを植えたり、ハマヒサカキ、アコウやガジュマル等気根のある木やブナ科のタブノキ・シイ・ヤブニッケイやバラ科のシャリンバイ（車輪梅）天南草（サトイモ）科のクワズ芋、トベラ科トベラ、マメ科ハリエンジュ、コウヤマキ等が生えていた。又三葉ツツジ、マルバサツキ等も花を咲かせていたが、ラン科のエビネやナゴランもあるそうだが見られなかった。民宿の近くのお宮の森はマキやアオウの大木が茂り昼も薄暗い処で谷川も流れていたが、御岳の他の谷は涸谷ばかりだった。3/14は港近くの天泊温泉へ行ったが栓を抜いてあり無人で湯のたまるのを待ってやっと入浴出来た。17:20~37中之島港、十島丸に乗船。3/15、1:17~6:30鹿兒島港、鹿兒島駅6:50~7:13、西鹿兒島7:17~8:40、門司港16:35~36、フェリー港17:00~20:00名門フェリーにて大阪南港3/16、8:00入港解散。

JR-鹿兒島~門司港は18キップ利用。

〔個人山行〕

## 残雪の景鶴山

服部正義

5月の帰省ラッシュの始まる4日から7日まで、群馬県の尾根に4日、AM6:00、亀岡を出発する。

R. 9, R. 27, 美山町, R. 162で小浜市に出て、又R. 27をとり、倉見集落で近畿の名山、100の三十三間山(842m)三等三角点に夫婦松コースから登り道草をする。

敦賀I.Cから北陸自動車道にのり、江沼三山、白山、立山連峰、毛勝三山を横目にしながら、上越I.Cで下車して、R. 253で、新潟県、六日町I.Cで関越ロードに上り沼田I.Cまで走らせ、R. 120, R. 401で、戸倉から鳩待峠まで来て、車内で約2時間、仮眠して景鶴山に向って5月5

日、朝食を済ませ快晴の中、AM 5:00 出発する。

### 景鶴山 (2,004m) 日本三百名山

駐車場は満車、スパッツをつけ、12本歯アイゼン、ピッケルを持ち、ヨシッポリ、田代、東電小屋まで、鳩待峠から2時間4分でAM 7:04分到着、小屋で10分間休憩する。

途中、中田代附近は60名位の名カメラマンの集団、至仙山や燧ヶ岳を撮る人々でにぎやか、小生1人が景鶴山に向かってカメラマンのシャッターを切る。

7時15分、小屋うらから笹山(1,537m)に向かって登り始め、三角点は雪の下、尾根を4回、ピッチを取り9時20分、ヨサク岳(1,932m)に登り着く。

尾瀬ヶ原や百名山、平ヶ岳からの景鶴山はあまり目立たないが、ヨサク岳からの雪山、景鶴山にびっくりする。

ヨサク岳で10分の休憩を取り、一気に景鶴山、山頂にAM 10:07分に登る。

山頂はせまいが360度の展望、平ヶ岳、越後三山、至仙山、燧ヶ岳、谷川岳、武尊山等々の山が、例年になく雪が多く、五感を楽しませてくれる。

早い昼食を済ませAM 10:50分下山開始、下山は景鶴沢、上ヨサク沢の急な尾根をアイゼンを付け、ピッケルを使いながら一気にヨッピーの吊橋まで35分で戻る。

至仙山を正面に見ながら、山ノ鼻キャンプ場をめざし天気も快晴で雪がゆるみ足が重くなってくる。

鳩待峠にPM 1:47分に無事に帰って来てクーラからビールを出し、登山靴を干しながら、車内で40分程眠っていると岐阜ナンバのキャラバン車の音で目がさめる。

山の情報交換で明日、景鶴山に登山とのことで、こちらも5月6日、白砂山(2,140m)でテントを張り佐武流山(2,192m)にピストンの予定を言うと、今年は雪が多くて野反湖まで入れないとの事。

地図を見ながら予定変更、雪のない南に下って山旅を続ける。

### 榛名山 (1,449m) 道標、榛名富士 (1,391m) 一等三角点補点

榛名山の最高峰は掃部ヶ岳(1,449m)で町営国民宿舎下の町営無料駐車場から山頂までの登山道もあり、山頂まで急登の連続で30分で登る。

富士シリーズで今回も登山口から19分で山頂のコンクリートで固められた一等三角点に触れ、相馬山、掃部ヶ岳を見て、国民宿舎で夕食と入浴をたのみ、車内で6時間程度眠り、5月6日、AM 4:50次の山、妙義山に向かって安中市、松井田町、妙義町に車を走らせる。

### 妙義山(相馬岳) (1,104m) 三等三角点

妙義神社下の駐車場に車を置き、神社に参拝して左側の関東自然歩道で第一展望台、第二展望台をすぎて、気をつけていないと見落しそうなタルツキ沢を気をつけながら78分で三等三角点の山頂に着く。

新緑で美しい裏妙義や周囲の山々を楽しみ、天狗岳、大のぞき、白雲山、大の字、の縦走、スリルがあり、最後、下山の途中にある奥之院に参拝して妙義神社本殿の右側に無事下山する。

妙義山は赤城山、榛名山と共に上尾三山とよばれ、又耶馬溪（大分県）寒霞溪（香川県小豆島）と共に日本三大奇勝の一つに数えられて、名勝、妙義山はこの地の「柴垣はる」さんが県に寄付し、県立公園として設置された名勝地です。

#### 荒船山（1,423m）

妙義町から下仁田町、R.254をとり、佐久市に車を走らせ新しい国道の内山トンネルを出た所で、内山牧場をめざして登って行くと旧国道の内山峠で荒船山に一番近い所、平成2年に皇太子殿下が登山されたので、危険な所は橋・柵・階段が設置され55分で山頂に登らせてもらう。

荒船山は、荒海に浮かぶ不沈航空母艦のようで、信州と上州の分水嶺にそびえる船の形をした死火山であって、佐久市側から見て右側が船首となり、左側が船尾と見え、船尾にあたる「ともえ艦岩」はカルデラ火山で吹き飛ばされた跡が約150m以上の断崖となっていて、山上ヶ岳の「のぞき」、妙義山の「大のぞき」以上で、内山峠付近からの荒船山は特異な山容で古代人も崇拜した山とか。

車で峠まで登ったついでに物見山（1,375m）三等三角点に車で登って一山稼せがしてもらう。

#### 鉢伏山（1,929m）二等三角点 三百名山

佐久市からR.142で岡谷市にでてR.20で塩尻市に出る途中、高ボッチ高原にアスファルトの林道を登り、さらに奥へ約5km位進むと鉢伏山駐車場、6分で大神さんが奉ってある二等三角点の頂上に着く。

この山も車で一山稼せがしてもらい崖ノ湯温泉に入湯して、塩尻市で夕食をとり、塩尻I.Cで長野ロード、中央ロードに乗って、屏風山パーキングエリアで約7時間位眠る。

#### 屏風山（774m）一等三角点補点

5月7日、(快晴)AM5:00、眠りからトラックのエンジン音で眼がさめ、正面に屏風状の屏風山、天候も最高、もう一山稼いで帰京することにする。

瑞浪I.Cから県道瑞浪～恵那線（66号線）で上平の萩原学園前を瑞浪から来た場合右折して十数軒の集落を抜けてアスファルトの林道を右にとり2～3分で、屏風山登山口（百曲りコース）に着く。

谷川の冷い水で顔を洗い、水を飲んで、尾根の百曲りコースを数えながら登って行くと、展望台があり道を左りにとり、小鳥のさえずり、新緑のわかば、ヤマツツジ、ブルの空の下、ルンルン気分の山歩き、45分で大草バス停からの道の分岐で右に足を向けて10分でヒノキで造林された山頂に着く。

展望は西の方向、恵那、瑞浪、土岐市で、朝食を取りながら休憩、記念写真を撮り往路下山。

車に戻り日本道路地図を広げて、屏風山（794m）に×印をつけて登りたい山の近くを通行の時、必ず登ると目標に近づくので、小生は、登りたい山に○印を入れて山旅をしています。

無事、PM1:10分、洛西車庫へ戻り入湯させて頂き亀岡へ戻る。

〔個人山行〕

## シンコボ △ 811.4m

大槻雅弘

とにかく、青葉がいっぱいだった。

長く山に登っているが、これほど山の新緑を青さを感じたことはない。流石、京都の秘境「京大演習林」だけのことはあると思った。自然を残し、研究目的に地元から借地して、今の観光ブームのような人の手を入れない良さ。自然破壊されない、まさしく京都の山の宝物である。

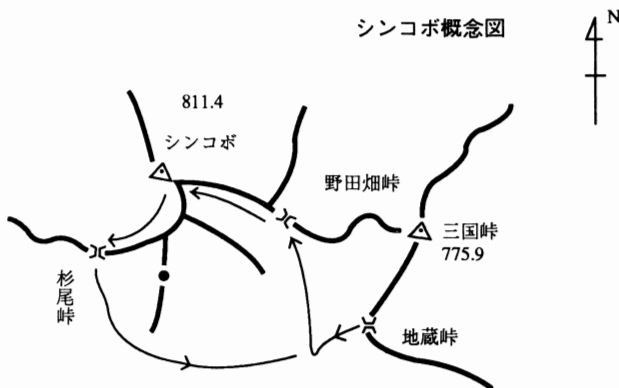
演習林の樺林の中を、陽が若葉を通して背を差す。小谷の水を濡らしながら進み野田畑峠へ着く。踏跡をкаろうじて辿った峠に、朽ちた標識を見た時はホットした。

峠から、なおも谷を進むと言う友と別れ、ピンクのツツジの花に導かれ尾根径を採った。やがて、谷の源頭と尾根が合して、ピークに立つ。そこから、一呼吸おいてヤブをかき分けると、美しい無傷の顔の三角点が我々を迎えてくれた。

いつものように、山を語り、友と語る頂の時は短いがこの「時」が山の登りの苦しみを消す「時」でもある。

三角点から、杉尾峠への径は、ブナ林の中を若葉がうまる青い谷筋を下って、地藏峠へと戻った。

(5月15日)



〔個人山行〕

93 : 6 : 2

## 経ヶ岳 ● 889m

津田実

記念誌の原稿（経ヶ岳・イチゴ谷山）提出が遅れ編集長からは矢の催促！！然し、『単独行は一切罷り成りならぬ』。クラブの鉄則に縛られて身動きがとれぬ状態だったが、幸運にも神よりの使者。吉田さんの同行を得て、通よい慣れた花折峠を越える。

久多村誌の一節に依れば

形勢 山岳叢杏溪谷盤屈人居は僅かに萬山中に点在す郡中最も幽避の地なり北に三国岳あり山城近江丹波に誇り其山麓たり其脈東と南に走り分水嶺となり本村の東北を限る京都に出るには尾越峠の険あり他方人の往来希なる所なり

運輸 四面山谷深阻運輸甚だ不便なり滋賀郡葛川村梅の木に達するに道路は米穀及一切日需品の輸入物産薪炭輸出の途なり然るに管内に属する所は改修なるも管外は旧来の険阻山逕にして担荷の外牛馬を通ぜず

とあり、如何に僻遠の地であったかが分かる。現在も梅の木より久多に入るには離合困難な羊腸の険阻さは変わらない。

また、山岳の項に擧阪岳 久多村上区字見渡谷に在り東は近江国高島郡朽木村平良に接し西北南の三面は山に接し直立約 68 丈周廻実測せず

とあり、これが経ヶ岳と思われるが定かでない。他に三国嶽、滝谷山、右君道山、観音山、根来山等が記されている。『宮後氏 遺稿 部報 NO207 より抜粋』。

その問題の経ヶ岳であるが、久多聚落最奥の三軒家（これは三軒の家があったので、そう云はれている、久多聚落の人の話）を過ぎて、右側最初の谷（ミコ谷）右岸を遡上する。

小滝を左に送り（田中さんが登られたルートは、此れらしい）快調に登って行く。だが、登るにつれて径が段々怪しくなって高度 600m までくると獣径に変わってきた。ルート確認のために歩を止める。

地図上の水線末端まで登って谷の合流を右の谷に取り付き、お得意の四輪駆動で匍い登っていくと前方に巨木が現れた。直径数米の木が二本あり、上部で一本になっている。普通は木の根が数本に分かれているのは見かけるが、根の表面が幹のようなのはお目にかからない。実に不思議な木だった（高度 720m 地点）。それか少しで稜線にでて左折、経ヶ岳を目指す。

過日、経ヶ岳からイチゴ谷山へ此の稜線を歩いたことがある。（S61：6：15）今日は午後から雨の予報を聞いていたが、稜線は凄いい風で谷筋でかいた汗は何処へやら肌寒くなってきた。前回、歩いたときは確りした径があったように記憶していたが。経塚は壊れて数個の石塊と石板があるだけで、塚の面影も判然としない。今や此の地に経を埋めた古人の願いも空しく自然に失われて逝くのではないだろうか。以前、田中さんや私たちが見た缶詰は消失、烈風の下にビールの空缶がむなしく転がっていた。此の凄さまじい風では休息も儘ならず蒼惶として経塚を後にする。

下山路は北方の稜線上を歩いたのだが、右の針畑川を意識し過ぎ、何時の間にもやらの支尾根に乗って仕舞っていた。雑木林の急斜面を滑落に近いスピードで駆け降り、谷間で休憩。地図を見ると久良谷であった。昨年末に三国岳へ行った時に歩いた林道は立派にできていた。

〔参加者〕 吉田、津田

天候 曇り後 雨

〔コースタイム〕 ミコ谷取付 9：35 → 谷ノ岐れ（600m 地点）10：05 ～ 10：10 → 巨木（720m 地点）10：35 ～ 10：40 → 稜線にでる 10：50 → 経塚 11：10 ～ 11：40 → 久良谷 12：25 → 駐車地点 13：05

# 例会報告

例会No.	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1943	富岡山と オオボウソウ	4月24日		大槻 雅弘		中止
1945	九州の山旅	4月30日～ 5月4日		岡田 茂久	渡辺, 方山 山元	(別稿詳報)
1950	花見山, 船上山 仏ヶ山	5月15日～ 16日		岡田 茂久		延期
1951	大峰 白倉山	5月15日 ～16日		三橋 勉	伊藤, 河村 山下	(別稿詳報)
1953	(変更) 阿星山 △ 693.1  大納言 △ 596.1 飯道山 △ 664.2	(変更) 6月4日	曇	岡田 茂久	和田 良一	滋賀県畜産団地より、林道を石部町側に回込み、池畔の駐車場から林道を経て、木階段の良く整備されたハイキング道を頂上へ。 旧三角点はNTTのアンテナが建設され移動。(新三角点は南東約200m地点に新設されている △ 583.3) 中井出の飯道神社参道を登り飯道神社行場巡りの後、飯道山頂へ。 三山共、展望がよく一日のんびりと歩くには、持ってこいである。(和田良一)
1954	(変更) 燕岳から 常念岳縦走	(変更) 6月5日 ～7日		吉田 武	他 2名	(別稿詳報)

# 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
悪石島御岳・ 中之島先割岳	3月8日 16日		坂井久光 他1名	(別稿詳報)
和佐又山	5月13日	晴	坂井, 坂田	
シンコボ △811.4	5月15日	晴	大槻 雅弘 他2名	(別稿詳報) 久しく、京大演習林のブナを見た。まぶしい程の青い空と青い葉と。国境稜線の外れに三角点はあった。野田畑峠と杉尾峠を結ぶ線は本当に「北山」らしい雰囲気満喫出来るコースである。
霊仙ヶ岳 △536.3	5月23日	晴	大槻雅弘 他1名	山上から見る水田風景が、こんなに美しく、幾何学的なものとは知らなかった。里山も多く登っているが田植シーズンしか見られぬものであり樹間の山風景と違って、一味違う山行であった。
比良山縦走 (平～北小松間)	5月23日	曇晴	竹田, 井戸 方山, 山口 多田	前日の雨とはうって違って、良い気象条件となり、当初北比良までの予定を越え北小松での下山となりました。水平20km弱、10時間余りの山行でした。 (コースタイム) 平(京都バス) 9:00…10:00 権現山…10:30 ホッケ山…11:20 蓬莱山…12:25 打見山…12:45 木戸峠…13:15 比良岳…13:50 鳥谷山…14:20 南比良峠…14:50 金糞峠…15:30 比良ロッジ…16:30 釈迦岳…17:20 カケオ山…17:50 ヤケ山…18:45 ヤマモモの滝…北小松
藤原岳	5月24日	晴	坂井, 坂田	山頂, 麓の山草を見にいった。
六甲山 △931.3 千丈寺山 △589.6	6月6日	曇後 晴	大槻雅弘 他1名	今まで手の届かなかった一等三角点にタッチすることができた。長く米軍が管理していた土地が神戸市へ返還されたからだ。六甲山の三角点は市の公園化の工事中であったが写真に撮ることができた。その後、三田市の一等補点千丈寺山へ足を伸し、一等三角点二山をものにした。
景鶴山	5月4日 ～7日		服部正義	(別稿詳報)
経ヶ岳	6月2日	曇後 雨	吉田, 津田	(別稿詳報)
霞沢岳	6月5日	雲	坂井他1名	ウエストン祭
焼岳	6月6日	晴	坂井他1名	ウエストン祭



# 雑 報

## △△△ 6月の集会

日 時 6月11日(金) PM 6:30~8:10  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 (OB) 坂井, 津田, 奥村 (高速) 大倉  
(本局) 方山, 井上, 山元, 三橋, 岡田, 大槻, 和田 以上11名  
内 容 例会報告, 個人山行, 岳連理事会報告その他

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

5月号 比良山岳, 愛宕ニュース  
6月号 青嶺, 近畿山行, 北山, 京都山岳, 趣味の登山, 木雞, 山友

## △△△ 5月の企画運営委員会

日 時 5月20日(木) PM 6:30~  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 岡田, 大槻, 吉田, 三橋, 和田, 奥村, 井戸, 津田 以上8名  
内 容 例会予定, 岳連関係報告, ほか

## △△△ 部費徴収のお知らせ

平成5年度の山岳部費を徴収しますので, よろしくお願ひします。(7月中)  
(振込用紙は別途送付します。)

## △△△ 例会予告

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第1964回★ 千日参り 愛宕山	7/31(土) PM 1:00 京福嵐山駅	和田良一(692)	嵐山-清滝…表参道…愛宕 神社…表参道…清滝-嵐山

平成5年5月31日現在

## 部 員

125名

### OB部員

近藤 薫  
森下 村重  
伊藤 潤治  
中村 維源  
牧 定夫  
田中 定勝  
山村 敏郎  
畑 照人  
石田 和男  
山下 周道  
坂井 久光  
奥村 弘信  
河村 清  
松岡伊太郎  
津田 実  
笈田 昭  
横井 襄二  
上田 隆  
村 宗松  
辻 久雄  
今井勇一郎  
石田 弘  
石川かず栄  
北川 晃  
森本 清一  
楠 とし子  
木原 茂  
坂田 利春  
上島 和彦

### 本局

三浦 貞義  
渡辺 智生  
長谷川雅也  
宮川 勇  
出海 洋三  
足立 公弘  
木下 嘉造  
鷺見 敏一  
前田 文男  
山元 誠一  
大切 照男  
方山 宗子  
大槻 雅弘  
佐伯 康介  
三橋 勉  
沢井 佳三  
川原 傳治  
原田加津子  
上島 弘子  
立花 雅彦  
若山 裕孝  
広瀬光太郎  
鎌田 利雄  
竹田 勉  
大杉 雅晴  
和田 良一  
大塚 孝之  
政 道代  
平田 嘉輝  
馬淵 拓巳  
猪飼 康夫

岩野 誠司  
山岡 昭弘  
今道 力  
池田 茂生  
藤原 敬巳  
児玉 宣治  
徳野 治  
大野 滋久  
牧野 健  
柳田 晃  
井上 一夫  
関本 俊雄  
井戸 澄夫  
角田 敏昭  
山口 雅直  
田村 正弘  
伊豆蔵 清  
鷺見寿未子  
大沢 泰  
森塚 良郎  
岡田 茂久  
田中 繁行  
多田 義人  
室谷 和彦  
清水 康裕

### 高速

石田 幸次  
河合 秀晃  
広瀬 烈  
篠田 勝美  
今井 武夫  
中島 孝生  
矢野 聡

### 竹田

田村 忠司  
大倉寛治郎  
岡本 孝  
尾川原和彦  
松田 誠二  
上村 次男  
清水 明  
井上 豊

### 西賀茂

横田 義一  
山田 富男

### 梅津

蛭子野俊雄  
吉田 武  
花岡 弘武  
阿部 義夫

### 五条

田中 明  
田中 忠久

### 烏丸

台川 敦美  
久保 忠三  
山本 俊夫  
伊知地文男

### 洛西

武田喜久郎  
竹井 章  
井口 寿雄  
谷口多加志  
服部 正義  
佐々木敏雄

### 醍醐

岡本 勇

### 横大路

岡本 義弘

### 錦林

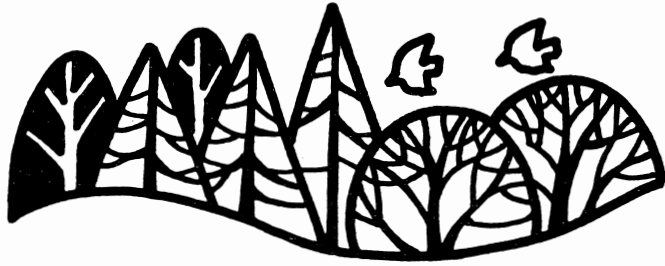
竹村 芳広

### 九条

古市 昌造

### 市役所

中山 忠之  
荒田又之助  
西尾 直樹



**THE LOG CABIN CO.**  
 H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS  
**KYOTO JAPAN**

---

**登山道具店 ログケビン**  
 ☎604 京都市中京区御幸町通娯楽師下ル  
 FAX:(075)221-8069 ☎(075)221-7569  
 営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か  
 定休日:月曜日と火曜日 FAXをお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

**贈答品総合センター**  
 厚生会指定  
**サンコークラフト**  
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
 TEL (075)771-3442

帆 布・濾 布  
 テント・シート  
 雨 合 羽

**木村工業有限会社**

京都市中京区ミブ車庫前  
 TEL 801-5331 (代)  
 西大路営業所  
 下京区西大路七条下ル  
 TEL 321-0251

**登山とアウトドア専門店**  
**今、アウトドア派大集合!!**

●登山用品はもちろん、  
 注目のスポーツ  
 カヌーをはじめ、  
 ひと味違う充実の  
 品揃えは必見のもの!!

**ビッグホリイケ**  
 営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
**☎(075)222-0363**

山 山 山 山 山……⑫

したさゆる氷室の山のおそざくら  
消えのこりける 雪かとぞ見る

(千載集)

氷室山は修学院から三宅八幡へ抜ける上野にある山。「延喜式」に定める六氷室の一つで、冬の氷を夏まで貯えておく氷室があった。また旧暦六月一日は氷室開きで、江戸は本郷加賀侯の邸内で氷室を開き、將軍家に雪を献上するのがならわしであった。梅の室から雪の出る暑ひこと梅は加賀百万石前田侯の家紋が梅鉢であったのを指している。

制作 (株) 北斗プリント社

〇七五―七九一―一六一二五

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US放出品  
ポータブルソフト用品

**Mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(256)-0548  
●営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ



株式会社

# 小林地図専門店

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

〒600 京都市下京区<sup>あけみず</sup>不明門通六条下る西側  
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成5年7月1日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内

京交山岳部